

## 駿河ほねほね団活動報告

神谷恭子

### 骨との思い出

30年以上前に、教員に成り立ての頃、お肉屋さんでいただいた豚の頭を、水をはった大鍋でグツグツ一晩、二晩と煮て、割りばし、ピンセット、歯ブラシを使い、肉を少しずつこそげとり、2週間くらいかけて頭骨標本を生徒たちと完成させたのがはじめての骨との思い出です。生物室で煮ている間はラーメンの出汁のような匂いが廊下から流れ出て、職員室から先生方がいったい何事かと来たのがつい昨日のことのような。あれから長い時間がたちました。どうして骨に惹かれるのでしょうか？と考えるってみました。遺伝学の木原 均先生は「地球の歴史は大地の地層に、生命の歴史は染色体に刻まれてあり」とことばを残されています。一方、骨にはその生物の生きていたときの暮らし方が刻まれています。標本づくりはその記録を読み解く作業、そんなことを考えながら活動しています。



アライグマ解体作業

### 活動報告

新型コロナの影響で長く活動を休止してきましたが、6月からは感染予防に注意をしたうえで活動を再開しました。

6月28日は6名が参加し、カヤネズミを剥製に、アライグマ、イノシシの脚、ヒヨドリを骨格にしました。3密を避けるため、1階の解剖室と2階のNPO事務室に半々に分かれて作業を実施し、1階ではアライグマを3人がかりで解体、2階では1人1種ずつを担当して作業しました。8月以降は、前回の続きであるヒヨドリ、ハクビシンとアライグマの骨格標本作成、また「自然史しずおか祭」に向けて「アライグマの整列式骨格標本の作り方」のポスター作り等を行いました。

今後もマスクと手洗いを徹底して、活動を続けていきたいと思っています。



自然史しずおか祭での展示